

日本を、 取り戻す。

今、**日本**のためにできること

我々は6年前の参議院選挙の時に、約8千票差で議席を失いました。
なぜ、議席を失ったのか、何が足りなかったのか、深く反省をしながら、
この事実をしっかりと受け止め今日まで歩を進めてきました。

お陰様で昨年の衆議院選挙において勝利し再び政権を担当させて頂くことになりました。
我々は「議席が増えれば増えるほど、支持率が上がれば上がるほど、
謙虚に政権運営をやらなければならない」と考えています。

野党の時代の苦しい時もお支えいただいた有権者の皆様に心から感謝すると共に、
これまでと同様に、いや、これまで以上に
「県民のための政治」を心掛け「チームくまもと」として
地方の声を常に伝え続ける活動を行ってまいります。

ご指導ご支援をよろしくお願いします。

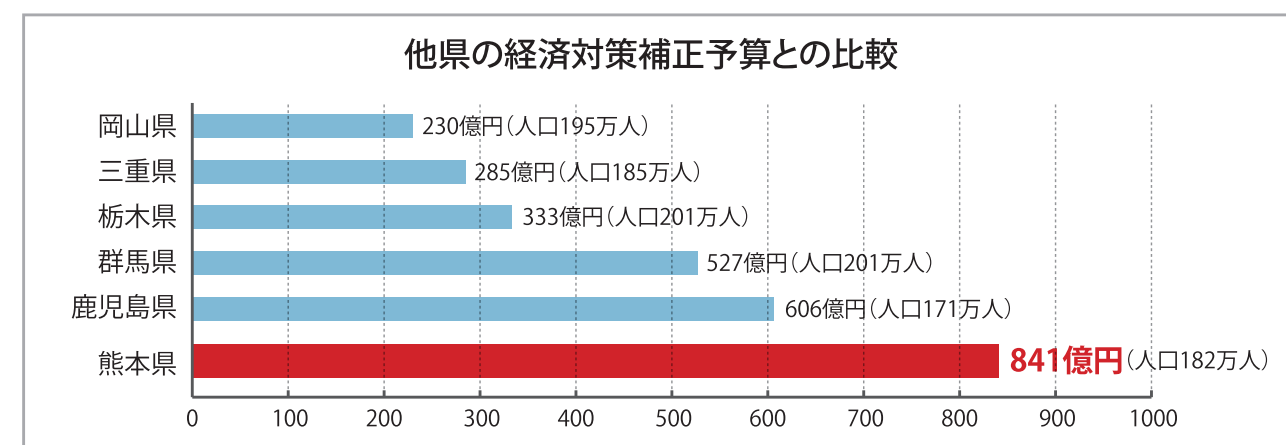
日本経済再生を 熊本から—。

「くまもと経済再生本部（チームくまもと）」の成果

昨年12月の衆議院選挙において、くまもと自民党の約束「政権公約」に明記した「くまもと経済再生本部」を政権奪還後、ただちに立ち上げました。自民党所属の国会議員、県議会議員が先導し、行政機関（県・市町村）、民間団体等が一体となって「チームくまもと」として、様々な政策の提言を行い、多くの予算を確保することが出来ました。今後も、「チームくまもと」の取り組みを強化し、熊本の成長を創り出します。

補正予算の額 **841億円**
（経済対策の補正予算としては過去最大規模）

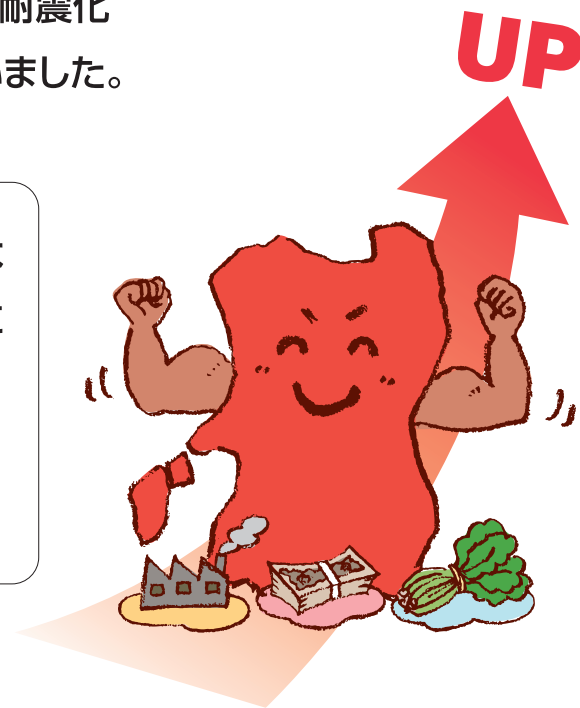
予算額は、九州 **1位**（全国6位）



政策の提案による予算化実現

- ◆熊本広域大水害からの早期の復旧・復興のために事業を前倒しました。
- ◆JR鹿児島本線等連続立体交差事業の予算枠を確保しました。
- ◆九州中央自動車道や国道266号大矢野バイパスなど幹線道路ネットワークを整備促進します。
- ◆老朽化する道路構造物等の総点検をはじめ緊急的な防災・減災対策のために予算枠を拡大しました。
- ◆農業の生産力強化に資する共同乾燥調製施設の整備、集出荷施設等の再編整備等の予算枠を確保しました。
- ◆農業農村基盤整備を計画的に実施するための予算枠を確保しました。
- ◆雇用対策、消費者行政、医療・福祉施設の耐震化整備等を促進する基金の積み増しを行いました。

強い農林水産業を推進し、美しく豊かな農山漁村の創造、地域経済の活性化に取り組むため
「チームくもと」活力創造本部を設置しました。



くもとの成長戦略

熊本県では平成19年に制定した「熊本県中小企業振興基本条例」の理念に沿って、地場産業の育成と地域経済の活性化に取り組んできました。

政権が代わり景気回復に向けて明るい兆しが見られますが、地方では、まだまだそれを実感するまでには至っていません。

今後は、さらに熊本の強みを活かし、地域のニーズに対応した成長政策、観光産業などサービスの振興、農林水産業の再生を重視した攻めの産業政策を実施し、とりわけ県内企業の9割以上を占める小規模事業者をはじめとする頑張る中小企業を力強く応援します。

- ◆商工業者の経営力を強化するとともに、商工団体や金融機関とも連携し、小規模事業者の資金調達の円滑化を図ります。
- ◆将来を担う若年者や女性、高齢者、障がいのある方の新たな雇用の創出、雇用の維持に努めます。
- ◆自動車、エレクトロニクス、食品関連などの分野において、地域企業とも連携できる地域に根差した企業の誘致に取り組みます。
- ◆県内立地企業の存続と発展のため、研究開発部門の誘致や大企業の生産部門の集約を促すなど、熊本の拠点性の向上を図ります。
- ◆東南アジア諸国や台湾などのアジアをターゲットとした中小企業の新たな海外展開を支援します。
- ◆豊かな農林水産物を活かした食品、バイオ関連企業の新製品・新商品開発や販路開拓を応援します。
- ◆くまモンなど、地域の歴史や産業を象徴する“ゆるキャラ”を活用した食品関連商品などの販路拡大や地域の観光PRを図ります。
(→平成24年くまモン利用商品売上げ293億円の8割強は食品関係)
- ◆美しい自然や豊富な地下水など、熊本の環境を守りながら発展できる新エネルギーなどの環境関連産業の振興を図ります。
- ◆おもてなしの心漂う観光の拠点「選ばれる観光地くもと」を実現します。
- ◆沢山の人々が集まり躍動する全国、世界規模のスポーツ大会や大型コンサートを誘致します。
(→12月に「2019年世界女子ハンドボール大会」開催地決定予定)
- ◆熊本県出身の作者による「ワンピース」など、漫画・アニメを楽しめる熊本づくりを応援します。
- ◆世界でも活躍できる技術と知識を兼ね備えたグローバルな産業人材を育成します。
- ◆子どもや孫と一緒に巡り楽しめる「駄菓子屋」、「八百屋」、「魚屋」、「よろず屋」のある地元商店街の復活と維持を応援します。

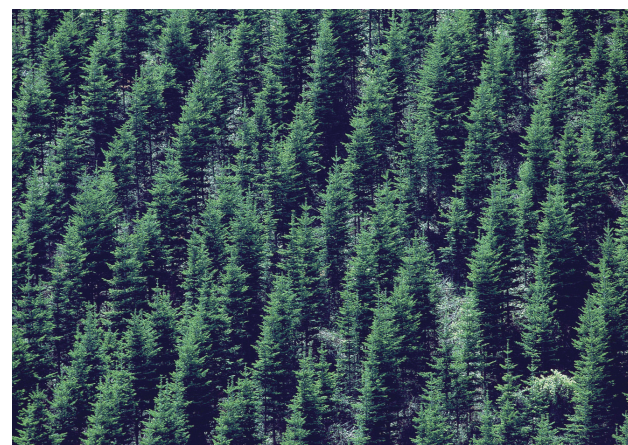
農林水産業の 再生を 熊本から—。

守ろう田園風景！ 稼げる農業県を目指して！

TPP交渉においては、重要品目などの聖域を最大限確保し、農山漁村が持つ多面的機能を念頭に食料生産・供給の不安を除きつつ国益を守ります。

また、強い農林水産業を築くためには生産基盤の整備や技術開発は欠かせません。

産物集出荷場、圃場整備、林内路網や漁場整備、家畜改良などの技術開発を進め、持続可能な「攻めのくまもと農林水産業づくり」に取り組みます。



- ◆「日本型直接支払制度」の早急な創設に努めます。
- ◆棚田や里山、中山間地への支援の拡充に努めます。
- ◆6次産業化を推進し、農業・農村の所得向上を目指します。
- ◆くまもとの赤のブランド確立を目指します。(あか牛・トマト・スイカ・真鯛 等)
- ◆農地整備とともに担い手への農地集積の加速化を図ります。
- ◆「くまもと地産地消推進県民条例」の理念に沿って、県産木材の公共建築物や住宅への利用等、県内で生産された農林水産物の地産地消などを促進し、地域活性化を図るとともに、県産品のブランド力を強化し、「くまもとブランド」として全国に発信し、販路拡大を図ります。
- ◆再生可能エネルギーの調査研究を進め、さらに取り組みを強化します。

「全国豊かな海づくり大会(10月26・27日／熊本県内)」を 契機とした 活力ある水産業づくり

有明海、八代海、天草灘で営まれている本県の特徴ある水産業の魅力と再生した水俣の海、さらには、水産資源や自然環境を守り育てることの大切さを全国に発信します。また、大会開催を契機に、水産資源の回復などの取組みをさらに推進します。



命を守る国土強靱化 の推進と 熊本広域大水害 からの復興

東日本大震災は、自然災害の脅威を再認識させました。また、本県においても、昨年の熊本広域大水害の発生により、新たな課題が明確になりました。今後、南海トラフ巨大地震が発生すれば、九州にも甚大な被害が想定されています。また、県内の活断層でも、震度7程度の強い地震が発生すると想定されています。

災害の危険を除去・軽減するため、防災・減災対策を充実・強化し、災害に強いまちづくりを推進します。

防災力の向上

- ◆県内市町村の防災行政無線等の整備を進め、災害・避難情報の迅速・確実な伝達体制の充実を図ります。
- ◆高齢者や障がい者等の災害時の避難に特に配慮を要する方を含め、県民の皆様が安全に避難できる体制を強化します。
- ◆広域及び大規模災害に備える体制の構築を図ります。
- ◆共助の中心的な役割を果たす「自主防災組織」の意義を周知し、結成を促進し、地域の防災力を高めます。



災害に強いまちづくり

- ◆熊本広域大水害からの復旧・復興を迅速・着実に進めます。
- ◆公共施設や防災拠点施設等の耐震化を図ります。
- ◆海岸堤防等の海岸保全施設や治水・治山対策を計画的に進めます。
- ◆老朽化した道路や橋、上下水道等の社会インフラの更新を計画的に進めます。

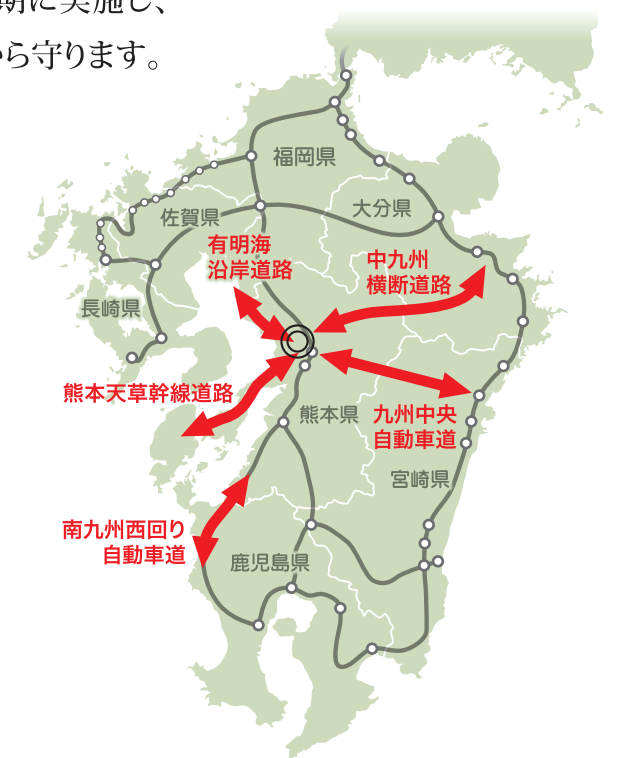
通学路の安全・安心の確保

未整備の危険な交差点や歩道の安全対策を早期に実施し、子どもや高齢者、障がいのある方を交通事故等から守ります。

地域の元気を創る 道路ネットワークの整備

県民が便利さを実感できる道路網の整備に積極的に取り組みます。

- ◆九州中央道・中九州横断道・南九州西回り道路・天草幹線道路・有明海沿岸道路(Ⅱ期)の早期整備に取り組みます。



子どもたちは 熊本の宝！ 教育・子育て 支援の充実

熊本の未来を築くための子育てを応援！

熊本県では、平成19年に「熊本県子ども輝き条例」、昨年12月に全国初となる「くまもと家庭教育支援条例」を制定しました。

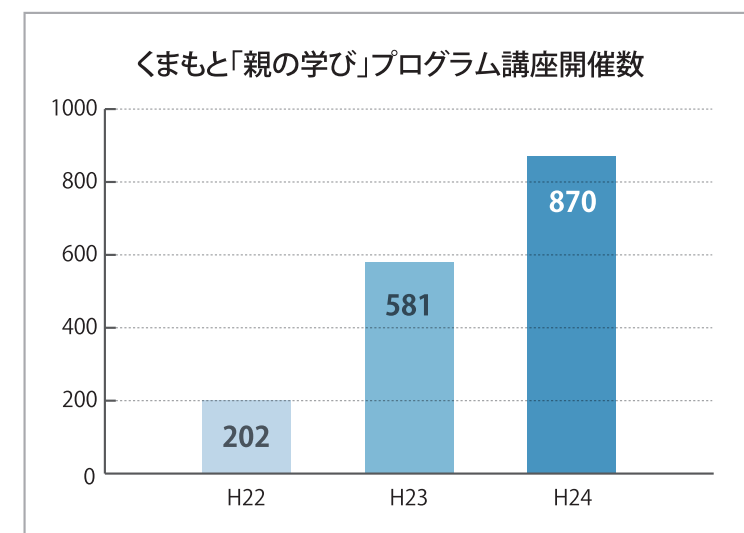
子どもは地域の宝として、それぞれの家庭はもちろんのこと、子どもを取り巻く地域社会や県民みんなで子どもの育ちを支える取組みを進めています。

また障がいを持つ子ども、保護者の負担軽減のため、特別支援教育の充実、さらに発達障がいについては、効果的な支援体制のあり方の研究など特別支援教育の充実をはじめ、様々な課題に対して方向性を整理し、ライフステージに応じた総合的な支援を行っていきます。



子どもたちの健やかな成長に 喜びを実感できる熊本の実現

- ◆スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の配置をさらに進め、子どもを取り巻く環境改善、教育相談体制の充実を図ります。
- ◆重度・重複障がいのある児童生徒のための新たな特別支援学校の平成26年度の開校を進めます。
- ◆「くまもと親の学び」プログラム講座を推進します。



- ◆放課後児童クラブ等を全市町村で利用できる体制整備を進めます。
(39市町村→全市町村)
- ◆待機児童の解消を進めます。(待機児童929人→0人)
- ◆病児・病後児保育の設置、充実を進めます。(25市町村→全市町村)
- ◆発達障がい児(者)の早期発見・療育など総合的な支援体制を構築します。
(発達障がい者支援センターの設置促進 2か所→3か所)



誰もが安心して いきいきと 暮らせる社会を！

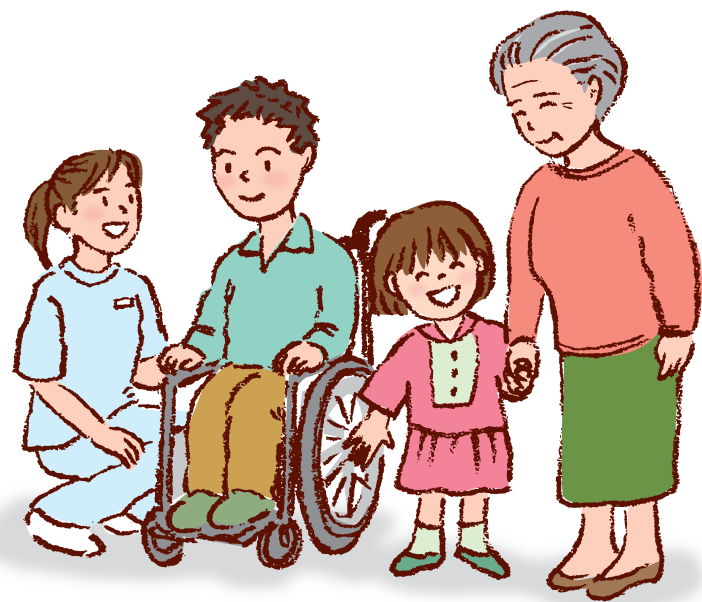
いきいきと暮らすことができる「故郷くまもと」

熊本県の少子高齢化の進行は全国よりも早く、平成37年には3人に1人が65歳以上になると言われています。

誰もが住み慣れた地域で、安心して、いきいきと暮らすことができる「故郷くまもと」を創造していくためにも、年金、医療、介護などの社会保障制度のさらなる充実が望まれます。

健康寿命を延ばし、高齢者がいつまでも生きがいをもって活躍できるための取り組みや、地域や在宅で安心して暮らせるよう医療・介護基盤の整備、認知症対策等に取り組めます。

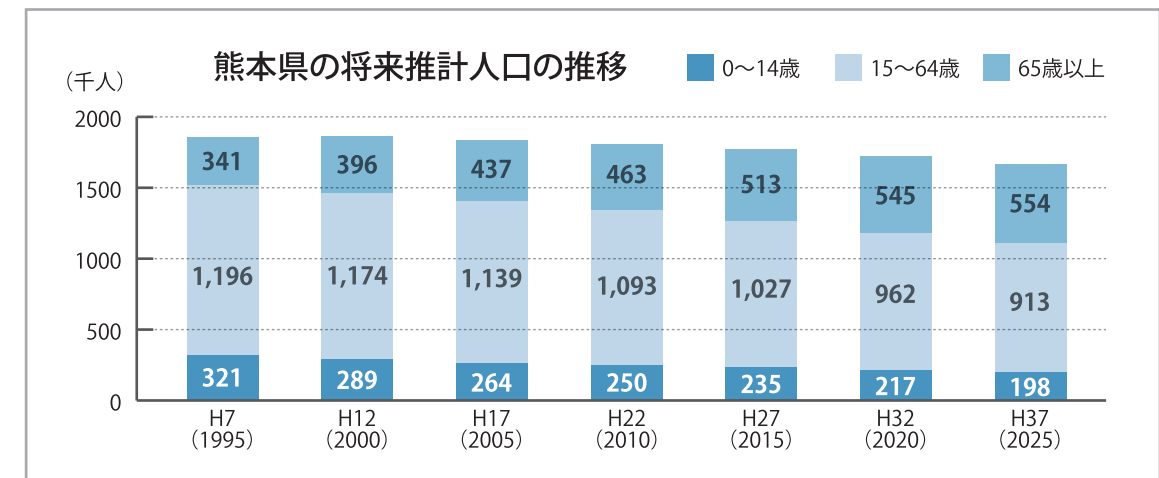
また、生活困窮者への対策を充実していくとともに、障がいのある人も暮らしやすい社会づくりを進めるため、支援体制の整備や医療・介護等の人材確保と育成に取り組めます。



◆住み慣れた地域で医療や介護のサービスが受けられる(地域包括ケア)システムの構築を進めます。

◆全ての地域で認知症の早期発見・対応の体制整備を進めます。

◆全国トップレベルの健康長寿県を目指します。



出典：総務省「平成22年度国勢調査」、厚生労働省「平成23年人口動態調査」(H23までは実績)
国立社会保障・人口問題研究所資料(H27年以降は推測値)

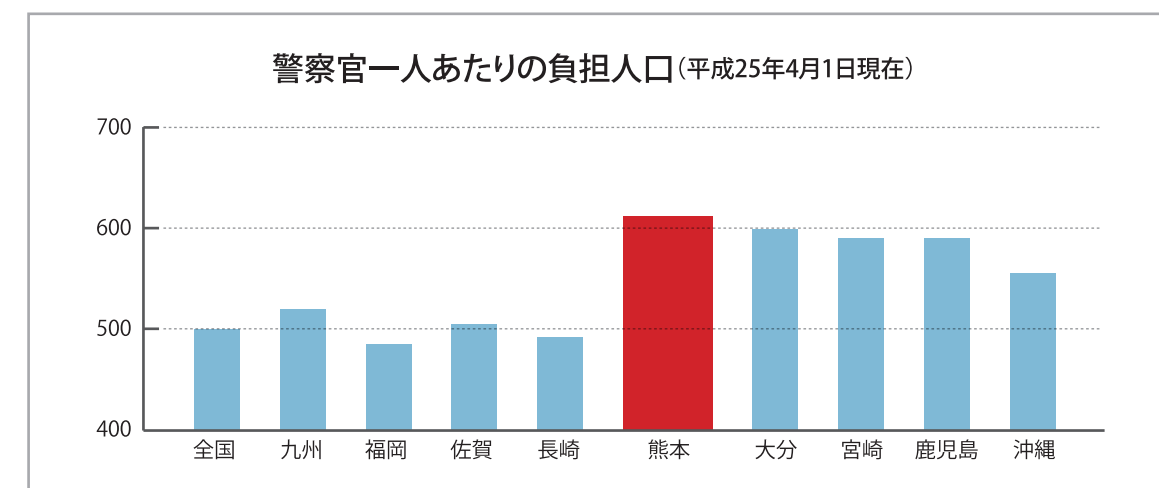
熊本の安心を守る！

◆さらなる安全安心のため、警察官の増員に取り組みます。

◆大規模災害発生時における、対策資機材の整備充実を図ります。

◆防犯ボランティア団体との連携を図ります。

本県警察官一人当たりの負担人口 **608人** (九州第1位、全国第7位)



熊本から 日本へ、 そして世界へ。

世界を舞台に活躍出来る人材の育成

真の国際人として、日本人であることに誇りを持ち、故郷の歴史・伝統・文化をしっかりと学び、世界に誇れる道徳心、そして故郷を愛する心を育てるよう取り組みます。



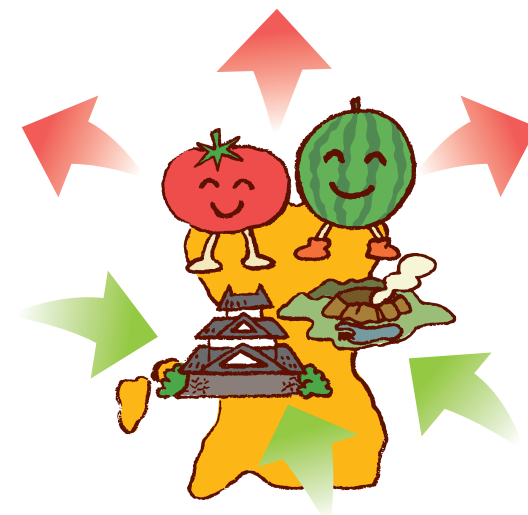
- ◆高校生を海外の大学に派遣し、語学力の向上、異文化との交流を推進します。
- ◆領土・領海を正確に記した日本地図を幼稚園・保育所、県下すべての学校に掲示します。
- ◆道徳教育用郷土資料「熊本の心」に代表される熊本モデルの道徳教育を全国に推進していきます。
- ◆拉致問題をはじめとする人権問題及び憲法問題等については、常に県民に対する啓発活動や世論を高める活動を実施します。

成長する「くまもと」

熊本の強みを活かし、ASEANを始めとするアジア諸国へ、そして世界各地へ積極的な展開を図ります。

熊本の魅力を海外へ発信し、アジアとともに成長する存在感ある「くまもと」を目指し、全国・世界に発信できる恵まれた観光資源を活かし、九州の観光拠点として「選ばれる熊本」「また行きたい熊本」を目指します。

- ◆世界農業遺産に認定された「阿蘇の草原の維持と持続的農業」の官民一体となった取り組みを様々な角度から応援します。
- ◆貴重な文化遺産を後世に伝えるため「長崎の教会群とキリスト教関連遺産(天草の崎津集落)」「日本の近代化産業遺産群(万田坑・三角西港)」「阿蘇-火山との共生とその文化的景観」の3件について、世界文化遺産登録に向けた取り組みを応援します。
- ◆国宝 青井阿蘇神社をはじめとする歴史的建造物や特別史跡・熊本城等の保存と活用に取り組みます。
- ◆県内企業の海外進出を支援します。
- ◆産業グローバル人材の育成に努めます。
- ◆県産農産物・製品の輸出販路開拓への支援体制の強化を進めます。
- ◆東アジアとの航空路線の開拓、世界のクルーズ船の誘致に努め、世界からの交流人口拡大を目指します。
- ◆全国大会・世界大会や、プロスポーツキャンプ等の誘致に努めます。



**「チームくまもと」は、今後も熊本県民の皆様の
安心できる暮らしのために一生懸命頑張ります！**